

ハトムギ通信 (第3号)

令和元年 7 月 1 2 日
アルプス農協管内農業技術者協議会

ハトムギ栽培のポイント ～除草対策、うね間かん水～

- ◎ハトムギは雑草が繁茂しやすいので、中耕除草などの除草対策を徹底しましょう。
- ◎培土は必ず2回実施し、除草と生育促進を図りましょう。
- ◎高温乾燥に弱いので、高温少雨が予想される場合は、うね間かん水を行いましょう。

☀️ 乾くのは、
苦手なんだよ！



1 生育期の培土及び除草

(1) 培土及び中耕による除草

- ハトムギが大きくなる前に雑草が発生してきたら、中耕による除草を行いましょう。
- 培土作業は、中耕除草と兼ねて2回確実に実施しましょう
 - 1 回目：播種後 30 日頃
 - 2 回目：1 回目培土の 2 週間後頃

(2) 薬剤による除草 (中耕で雑草を抑えきれない場合)

薬剤名	適用雑草名	使用時期	薬量	使用方法
バサグラン液剤 (全面散布が可能)	広葉一年生雑草	雑草3～6葉期 但し収穫 45 日前まで (イネ科雑草には効果なし)	薬量 150ml/10a、 希釈水量 100ℓ	2回以内
プリグロックスL (うね間処理に限る)	一年生雑草	雑草発生期(出穂期まで) 但し収穫 60 日前まで	薬量 600～1000ml/10a、 希釈水量 100ℓ	2回以内

※ 『プリグロックスL』がハトムギにかかると枯れてしまいます。絶対にかからないよう、ていねいに散布しましょう。

2 うね間かん水

ハトムギは、干ばつ (水不足) にとても弱い作物です。
高温少雨が予想される場合は、速やかに「うね間かん水」を行いましょう。

●干ばつにより水分不足になると・・・

- ①肥料の吸収が抑えられ、生育が停滞します。
- ②植物体内から水分が蒸発し、葉が巻き始める。

このようにならないために早めのかん水を!!

●うね間かん水の方法

- ①7月中下旬(出穂始め)～成熟期にかけて最も水分が必要なので、葉先がよじれてきたら遅れずにうね間かん水を実施しましょう。
- ②ほ場全体に水が行きわたるよう、十分にかん水を行って下さい。
- ③うね間かん水後は、自然落水して下さい。



遅れると不稔となり減収に!

アワノメイガの防除を行っていない場合は、速やかに実施して下さい (通信第2号を参考に)

※ハトムギ通信第4号 (適期収穫) は9月27日頃の発行です。

